(19)日本国特許庁(JP)

# (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出頭公開番号

特開平8-332229

(43)公開日 平長:8年(1996)12月17日

(51) Int.Cl.6

識別記号

庁内整理番号

技術表示箇所

A61M 29/00

A 6 1 M 29/00

FΙ

審査請求 未請求 請求項の数9 OL 外国語出願 (全 52 頁)

(21)出願番号

特顯平8-100622

(22)出願日

平成8年(1996)3月18日

(31)優先権主張番号 08/404488

(32)優先日

1995年3月17日

(33)優先權主張国

米国 (US)

(71)出願人 592222709

アドヴァンスド カーディオヴァスキュラ - システムズ イン:1ーポレーテッド アメリカ合衆国 カリフォルニア州 95052-8167 サンタ クララ レイクサ イド ドライヴ 3200 ポスト オフィス

ポックス 58167

(72) 発明者 スコット シー アン:プーソン

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 94087 サニーヴェイル キャッシュミア

コート 548

(74)代理人 弁理士 中村 稔 (2)7名)

最終頁に続く

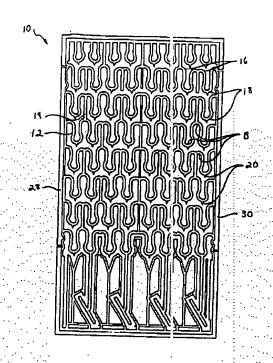
#### (54) 【発明の名称】 脈管内多アンカーステント

## (57)【要約】

(修正有)

【課題】 動脈瘤(特に、腹部大動脈の動脈瘤)を治療 するためのカテーテル・移植片送出システムに使用され る多アンカーステントを提供する。

【解決手段】 脈管内多アンカーステント10は、半径 方向に実質的に自由に膨張し、かつ共通の長さ方向軸線 と略整合するように相互に連結されている複数の円筒形 要素と、ステントが非膨張状態にあるときに外方に向い た、ステントの円周全体に沿った複数の刺とを有してい る。半径方向に膨張するとき、ステントが相当に短縮す ることなしに全体長さを保持するように、互いに隣接す る円筒形要素のみを相互に連結する。



BEST AVAILABLE COPY

### 【特許請求の範囲】

【 調求項 1 】 体腔に移植するための脈管内多アンカー ステントであって、半径方向に実質的に自由に膨張し、 かつ共通の長さ方向軸線と略整合するように相互に連結 されている複数の円筒形要素を備え、該複数の円筒形要 素は、多アンカーステントがステントを体腔に取付ける ため膨張形体にあるとき部分的に半径方向外方に向いた 少なくとも1つの刺を有していることを特徴とする脈管 内多アンカーステント。

【請求項2】 各円筒形要素は、多アンカーステントが 10 ステントを体腔に取付けるための膨張形体にあるとき半 径方向外方に向いた複数の刺を有していることを特徴と する請求項1に記載の脈管内多アンカーステント。

【請求項3】 各刺は、多アンカーステントが非膨張形 体にあるとき、共通の長さ方向軸線と整合状態に面して いることを特徴とする請求項1に記載の脈管内多アンカ ーステント。

【請求項4】 各円筒形要素は、複数の刺を有している ことを特徴とする請求項1に記載の脈管内多アンカース テント。

【請求項5】 複数の円筒形要素は各々、複数の山と谷 をもった蛇行形状を有し、前記山と谷は各々、複数の刺 を有し、各円筒形要素の刺は各々、ステントが膨張形体 にあるとき、指向性把持作用を行うように、実質的に同 じ方向に面するようになっていることを特徴とする請求 項5に記載の脈管内多アンカーステント。

【請求項6】 ステントが膨張形体にあるとき、少なく とも1つの円筒形要素の刺は、ステントの長さ方向の一 端のところで第1の方向に面しており、少なくとも1つ の円筒形要素の刺は、ステントの長さ方向の反対端のと ころで反対方向に面していることを特徴とする請求項5 に記載の脈管内多アンカーステント。

【請求項7】 ステントが膨張形体にあるとき、刺は、 前記ステントの長さ方向の一端および反対端のところ で、ステントの長さ方向中間部分の方へ向いていること を特徴とする請求項7に記載の脈管内多アンカーステン

【請求項8】 体腔に移植するための脈管内多アンカー ステントであって、半径方向に実質的に自由に膨張し、 されている複数の円筒形要素と、複数の円筒形要素の表 面部分に形成された、複数の尖った隆起部とを備えてい ることを特徴とする脈管内多アンカーステント。

【請求項9】 複数の円筒形要素は各々、複数の山と谷 をもった蛇行形状を有し、前記山と谷は各々、複数の刺 を有し、各円筒形要素の刺は各々、ステントが膨張形体 にあるとき、指向性把持作用を行うように、実質的に同 じ方向に面するようになっていることを特徴とする闘求 項9に記載の脈管内多アンカーステント。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は一般に、体内補形品 **に関し、より詳細には、腹部大動脈の動脈瘤のような損** 傷し又は病んでいる体腔の領域に配置するための脈管内 移植片およびステントに関する。

[0002]

[発明が解決しようとする課題] 腹部大動脈の動脈瘤 は、腹腔を通る大動脈の領域での大動脈の動脈壁の異常 な拡張である。最も一般的な状況では、アテローム性動 派硬化症から生ずる。 腹部大動脈の動脈瘤はしばしば、 分裂性の動脈瘤であり、これは、血液が圧送される動脈 壁に裂け目または裂溝が存在し、ついには閉塞するとき に形成される動脈瘤であり、脈管を膨張させ弱化させる 血栓症となる。腹部大動脈の動脈瘤は痛みを生じない が、内科検査によって容易に発見される。助脈瘤が発見 されず治療されない場合には、破裂し、患者を死に至ら しめる重い出血素を引き起こすおそれがある。腹部大動 脈の助脈瘤の治療は典型的には、動脈再生手術の形態を とる。このような方法の1つに、ハイバス手術がある 20 が、バイパス手術では、腹腔を切開し、動脈瘤の部位の 上方と下方で大動脈を閉鎖し、動脈瘤を切除し、平常の 静脈の直径に略寸法決めされた合成移植片またはチュー ブを脈管に縫合して動脈瘤と置き抄え、再形成された動 脈に血液を通す。移植片は通常、柔軟で薄肉の生物学的 適合性を有する材料で形成される。移植片を製造するの に、ナイロンや、商標DACRONやTEFLONとし て製造されている合成繊維が適当てあることが分かって いる。研究によれば、動脈瘤の破裂前にこの外科措置を 施したときは、この外科措置と関連した死亡率が5パー セント以下であることが分かっている。しかしながら、 腹部大動脈の動脈瘤を患っている患者の年齢は典型的に は65歳以上であり、術中や術後の合併症の危険を増大 させる他の慢性病を患っていることもしばしばである。 かくして、これらの患者は、この利の主要な手術の理想 的な候補者ではない。さらに、動脈瘤が破裂した後は、 大規模な手術およびその所要時間のため、この措置が成 功することは少ないことが指摘されている(死亡率が6 5パーセント以上になる)。

【0003】通常の外科的手法の変形として開発された かつ共通の長さ方向軸線と略整合するように相互に連結 40 別の措置は、動脈瘤の部位への移植片の配置を伴う。移 植片は、脈管系から目標箇所に至る脈管構造を通り抜け るのに適したカテーテル、ワイヤンは他の装置によって 搬送することによって配置される。移植片およびその配 置システムはしばしば、大腿部から経皮的に血流に導入 され、この措置全体は、全身麻酔ではなく局部麻酔を使 用して行われる。移植片が動脈瘤は位置決めされると、 移植片は送出システムから外され、動脈壁の動脈瘤の違 位位置と近位位置とに固定される。この目的のため、移 植システムは通常、機械要素によって、或いは、圧力付 50 加または温度変化による移植片の彫張などの物理的方法 3

によって操作され脈管内膜に駆動されるステーブル又は フックのような固定手段を有している。移植片の時期尚 早の取り外しを回避し、且つ、移植片を治療部位に導入 する際に取付け要素が脈管を傷つけ或いはシステムの前 進を妨げることのないように、システムにはしばしば、 配置の時期が到来するまで移植片を保護し収容するカプ セル又はシースのような要素が設けられている。移植片 が適所に配置されると、移植片は、移植片の壁が大動脈 の疾患領域の壁と略平行になるように、脈管の動脈瘤を 跨ぐ部位に位置決めされる。かくして、大動脈瘤は、切 10 除されるのではなく、移植片によって循環系から排除さ れる。

【0004】移植片を配置するための取付けシステムと 通常呼ばれている移植システムが知られている。 取付け システムは典型的には、移植片の内部に取付けられ移植 片と略同軸であり且つ移植片の遠位端部と近位端部のと ころで移植片から延びているチューブ状の装置である。 取付けシステムはしばしば、ラチス状の構造を有してお り、この構造は、取付けシステムに可撓性を提供し、且 つ、移植片が配置されると内皮組織の迅速な成長を促進 20 する。取付けシステムには、移植片を大動脈に取付ける ため動脈内膜に刺さるための付加的なフック状要素を設 けてもよく、或いは、このようなフック状要素を移植片 自体に設けてもよい。この種の移植システムは、米国特 許第4, 787, 899号、同第4, 104, 399 号、同第5,219,355号、および同第5,27 5,622号に記載されている。移植片を送出する実際 の機能は、カテーテルのバールンを膨らませることによ って、或いは患者の体外の源から加圧流体をカテーテル のルーメンに導入することによって、達成される。バル(30)る。本発明は、これらの要求を満足する。 ーンを膨らませると、移植片および取付け手段に力が加 えられる。との力は半径方向に延び、動脈瘤の上方と下 方で移植片と取付け要素を脈管壁に押しつける。取付け システムを使用するとき、移植片からのカテーテルの取 り外しは、取付けシステムの製造材料の化学的性質を利 用することによって遠成される。例えば、従来技術の取 付けシステムは、3M社から「NITINOL」として 入手できるニッケル・チタン合金のコイルの形態のもの であり、これは、髙温に加熱すると半径方向に膨張す。 半径方向の膨張から生ずる長さの減少を考慮しなければ ならない。腹部大動脈の動脈瘤の治療のため移植片を大 動脈壁に取付けるのに使用される他の装置には、米国特 許第4.733,665号に記載されている型式の脈管 内ステントが含まれる。

【0005】動脈瘤を治療するためステントを移植片配 置システムとともに最も有利に使用するために、ステン トは、生物学的適合性を有する材料で構成しなければな らない。ステントは又、曲がりくねった脈管路を通って

ーテル又は他の要素に順応するのに十分な程可撓性でな ければならず、かつ、送出された移植片の開口を半径方 向に維持するのに十分な程強くなければならない。ステ ントは、さほど複雑ではなく確実かつ容易に操作できる 送出システムによる配置に十分適合できなければならな い。さらに、半径方向に膨張する力に十分な力又は物理 変化が内部から加えられると、ステントがステント自体 および移植片の動脈壁への固定を功長するように、ステ ントは膨張可能であることが望ましい。種々の移植片送 出システムが提案されているが、超ましい特徴を全て備 えたシステムは提供されていない。腹部大動脈の動脈瘤 (AAA) の治療のためのステントの適当なアンカーリ ングは、移植片を固定するのに重要である。これまで、 ステントの一部のみに配置されたアンカーを備えたアン カーステントの正確な配置は、ステントを適当に固定し て腹部大動脈の動脈瘤を治療する心に重要であった。さ らに、このようなステントのアンシー用刺が配置される 大助脈の領域が、装置全体を適当に固定する程には健康 でないこともある。腹部大動脈の!カ脈瘤への配置の際に 外形を小さくするため、非膨張ステントの挿入径の増加 を出来るだけ小さくしたアンカー!『ち刺を備えた多アン カーステントが望ましい。

【0006】曲がりくねった経路に効率的に前進するた め高度の可撓性を有し、実質的に混さ方向に収縮するこ となしに比較的小さな挿入径(小さな外形)から比較的 大径まで半径方向に膨張でき、血管壁に固定し、かつ、 脈管壁に密着して動脈瘤の部位に移植された合成移植片 の開通性を維持するのに十分な機械的強度を有する、移 植片と組み合わせて使用されるステントが望まれてい

[0007]

【課題を解決するための手段】簡単に言うと、本発明 は、疾患した血管を治療するために、より詳細には動脈 瘤(特に、腹部大動脈の動脈瘤)に治療するためのカテ ーテル・移植片送出システムに使用される多アンカース テントを提供する。多アンカーステントには、ステント の円周全体にわたって、ステントが膨張状態にあるとき 部分的に外方に向く複数の刺が設けられているので、ア ンカーの正確な配置はさほど重要ではなく、ステントを る。使用する取付けシステムの長さ方向寸法は、装置の 40 健康な組織に固定してステントを服部大動脈の動脈瘤に 適当に固定しやすくする。また、ジアンカーステントに 設けられた多数の刺により、刺を小さくし、効果的な固 定を提供しつつステントの挿入径心減少させる。本発明 の多アンカーステントは、膨張可能であり、移植片およ びステント組立体を助脈瘤に進める際に小さな外形を維 持し、次いで、配置時に、健康な順部大動脈の直径およ びチューブ状移植片の最終直径に引等しい直径まで膨張 させることができる。本発明の多アンガーステントは、 ステントを従来のものよりも大きた直径まで半径方向に 動脈瘤の部位まで移植片を案内するのに使用されるカテ゛50|膨張させる形体を有しており、移植片を健康な組織に確

実に固定することを助けるように、ステントの円周全体 に沿って、動脈瘤の少なくとも上方で大動脈壁に刺さる フック又は刺を備えている。 多アンカーステントは、曲 がりくねった血管を通って治療部位への送出を容易にす るように、その長さ方向軸線に沿って幾分可撓性である が、膨張状態では、多アンカーステントは、移植片およ び大動脈の開通性を維持し且つ組立体を大動脈壁に取付 けるのに十分な程、半径方向に安定している。

【0008】ことで使用される語「近位」は、原点すな わちカテーテルの取付け箇所のような、患者の体外の基 準箇所に近い箇所を意味しており、語「遠位」は、患者 の体外の基準箇所から最も離れたカテーテル、ステント 又は移植片の位置の近傍のような、患者の体外の基準箇 所から離れた箇所を意味している。従って、本発明は、 体腔に移植するための脈管内多アンカーステントを提供 する。多アンカーステントは、半径方向に実質的に自由 に膨張し、かつ共通の長さ方向軸線と略整合するように 相互に連結されている複数の円筒形要素を備え、複数の 円筒形要素は、多アンカーステントがステントを体腔に 取付けるため膨張形体にあるとき部分的に半径方向外方 20 に向いた少なくとも1つの刺を有している。 好ましい実 施の形態では、各円筒形要素は、多アンカーステントが ステントを体腔に取付けるため膨張形体にあるとき半径 方向外方に向いた複数の刺を有している。本発明の別の 好ましい観点では、各刺は、多アンカーステントが非膨 張形体にあるとき、共通の長さ方向軸線と整合状態に面 している。半径方向への膨張時にステントが相当に短縮 することなしに全体長さを保持するように、互いに隣接 した円筒形要素のみを相互に連結するための複数の連結 要素が設けられている。本発明の好ましい観点では、隣 接する円筒形要素間の複数の連結要素は、軸線方向に整 合している。好ましい実施の形態では、円筒形要素は、 単一のチューブ片から形成され、別の好ましい実施の形 態では、円筒形要素は、円筒形体に丸めることができる 平らなシート材料から形成されている。本発明の別の好 ましい観点では、平らなシート材料から形成したとき、 平らなシート材料は、ステントを円筒形体に丸めたとき に合致する第1の長さ方向の支持バーと、第2の長さ方 向の支持バーとを有しており、平らなシート材料は、複一 数の第1の重ね継手をもつ第1の長さ方向縁部と、複数 40 供される図面を参照すると、本発明は、疾患した血管を の第2の重ね継手をもつ第2の長さ方向縁部とを有して おり、第1の重ね継手と第2の重ね継手は、ステントを 円筒形体に丸めたときに合致関係に係合する。好ましい。 実施の形態では、多アンカーステントは、ステンレス 銅、タンタル、および熱可塑性ポリマーからなる群から 選定した生物学的適合性のある材料で形成されている。 【0009】或る実施の形態では、多アンカーステント。 は、多アンカーステントの少なくとも一部が移植片の遠 位端を超えて遠位位置に露出されるように、チューブ状

ント組立体は、移植片の近位端が虹脈瘤の近位位置に延 びた状態で多アンカーステントおよび移植片の遠位端が 動脈瘤の遠位位置に位置決めされるように、脈管内に配 置される。多アンカーステントには、移植片およびステ ント組立体を大動脈壁に取付けるために、ステントが膨 張形体にあるときに大動脈壁の健身な組織に刺さるよう に外方に向いた複数の刺が、ステントの長さに沿って設 けられている。かくして、或る実量の形態では、一対の 多アンカーステントのうち一方が利植片の近位端のとと ろで、他方が遠位端のところで、チューブ状移植片に取 付けられている。ステントは、移植片とステントが膨張 して大径状態にあるとき、ステントが移植片と共軸とな るように、配向されている。ステントの円筒形要素に は、移植片およびステント組立体を大動脈壁に取付ける のを助けるため、移植片の長さの少なくとも一部に沿っ て、動脈瘤の上方と下方のところて大動脈壁の健康な組 織に刺さるためのアンカーが設けられている。アンカー は刺であり、アンカーが移植片およびステント組立体を 大助脈壁に固定するように、1つじ上の角度を有する種 々の形状のものである。

【0010】移植片およびステント組立体は、送出カテ ーテルのバルーン部分に取付け、肛管系を通して移植部 位まで移植片およびステント組立体を通すことによっ て、動脈瘤まで容易に送出することができる。送出の 際、移植片およびステント組立体をカテーテルに固定す るため、種々の手段を使用することができる。現在のと ころ、保護シースを使用して、ステントをパルーンに押 しつけ、移植片上のステントをバルーンに保持するのが 好ましい。本発明のこれらの及び他の観点および利点 は、本発明の特徴を例示的に示した添付図面を参照して 以下の詳細な説明を読むことにより、より明白になるで あろう。

### [0011]

【発明の実施の形態】ステントの一部にのみ配置された アンカーを備えたアンカーステントの正確な配置は、と れまで、腹部大動脈の動脈瘤を治療するためステントを 適当に固定するのに重要であった。アンカー用刺が通常 配置される大助脈の領域が、装置全体を適当に固定する 程には健康ではないこともある。例示的な目的のため提 治療するため、特に動脈瘤(とりわけ、腹部大動脈の動 脈瘤を治療するため、カテーテル・移植片送出システム とともに使用される脈管内多アンカーステントを提供す る。図1~図7を参照すると、本昇明の脈管内多アンカ ーステント10は、複数の円筒形リング12を備えてお り、円筒形リング12は、ステントが冶療部位のところ で移植片を取付ける確実な手段を提供するように近接し ているが組立体の可撓性を損なう程には密接していな い。円筒形リングは、連結部材14によって互いに連結 移植片の遠位端に取付けられている。移植片およびステ 50 されている。各円筒形リングは典型的には、一連の交互

の山16と谷18とを有する、蛇行形体すなわち波状パ ターンを備えている。隣接する山と谷に沿って矢印Bで 表される湾曲度は、異なる。複数の円筒形要素の各々 が、多アンカーステントがステントを体腔に取付けるた めの膨張形体にあるとき部分的に外方に面する少なくと も1つの刺を有するように、図1に示される、刺の形態 をした取付け要素またはアンカー20が、円筒形リング の谷18の複数の外方に向いた円弧の端部に設けられ、 ステントが膨張したとき、ステント配置時の大動脈壁と 好ましい実施の形態では、各円筒形要素は、多アンカー ステントがステントを体腔に取付けるための膨張形体に あるときに部分的に外方に面する複数の刺を有してい る。図1に示されるように、刺の形体は好ましくは、谷 18の外方に面した各円弧に刺が配置されるようなもの であり、好ましい実施の形態では、ステントは、リング 毎に8つの谷を有しており、これは、リング毎に8つの アンカーを提供する。

【0012】ステンレス鋼の膨張性状が、ステント10 にとって好ましい材料となる。より詳細には後述するよ 20 うに、刺20を有するステントは、化学的エッチング、 レーザー切断、又は放電機械加工(EDM)等によっ て、平らなシート材料から形成される。ステントとは別 個に刺を形成し、溶接、ろう付け等によってステントに 取付けてもよい。ステントの本体は、幅Wと、ステント の本体を円筒形に丸めたときにステントの長さ方向軸線 aと平行になるような長さしとを有している。ステント を円筒形体に固定するために、図1に示したステントの 本体の長さ方向縁部28、30は、溶接、ろう付け、は んだ付け、接着剤等のような適当な手段で連結される。 長さ方向縁部28、30を互いに溶接してステントの本 体を図2に示されるような円筒形体にするのには、イッ トリウム・アルミニウム・ガーネット (YAG) レーザ ーが特に適している。好ましい実施の形態では、下記の 寸法特性をもったステントが、AAA措置および脈管系 の解剖に使用するのに適している。しかしながら、他の 寸法も移植片送出措置において有用であることは明らか である。好ましくは、ステント10は、ステンレス鋼の 平らなシートで形成されている。平らなシートについて m(0.63インチ)であり、長さしは約5.1~5 .... 0.8mm(0.2~約2.0インチ)である。連結部 材14が、膨張リング又はパンドの蛇行成分の機断寸法 と同様な横断面を有しているのが望ましい。各アンカー 即ち刺の基部での最大幅は典型的には、約0.30mm (0.012インチ)であり、各アンカー即ち刺のシャ フトの長さは典型的には、約0.51mm (0.020 インチ)である。これらの寸法が好ましいけれども、特 別の臨床状況における最も適当な寸法の選定は、患者に よってかなり変動する。

【0013】ステント10が丸められ平らなシートから 円筒形体に接合された後、ステントは、各円筒形リング の直径方向の膨張量が大きく変動することなしに、かな りの量、半径方向に均一に膨張する。円筒形リング12 は、完成したステントの長さ方向 独線を横切り、山16 と谷18との間の曲率Bの変動度は、膨張時にステント の受ける応力を平衡させようとし 各パンドの山と谷 は、膨張力が加えられると、実質内に均一に半径方向に 膨張する。ステントの特有の構造は、ステントを最初の 係合するように外方に回転する。図1に示されるような 10 小さな直径から大きな直径に増加させる。隣接する円筒 形リング間の相互連結具14は、出互連結具が連続的な 円筒形リングの山16間の距離を 黄切るように、他の円 筒形リング間の他の相互連結具と適合している。各刺も 又、好ましくは、多アンカーステットが非膨張形体にあ るとき、共通の長さ方向軸線と整合状態にある。かくし て、相互連結具14による円筒形リングのこのような連 結は、長さ方向軸線Aのまわりの平径方向膨張の際、長 さ方向軸線に沿ってステントを短縮すなわち収縮させ る。この形体は又、膨張時のステットの捩じれを制限 し、より均一に膨張させる。同相の円筒形リングのバタ ーンは更に、配置後にステント又はその一部が解け、或 いは開始直径に戻る可能性を減少させるものと思われ

【0014】非膨張形体と膨張形はの両方においてステ ント構造体の所望の長さ方向の可能性を最大にするため に、相互連結部材14の数および行動を変えることがで きる。可撓性は、ステントおよびシタ植片組立体を脈管系 を通して動脈瘤に送出することができる容易さと安全性 を改良するので、ステントおよびジ៛植片の配置の際に有 30 利である。ステントの大動脈壁へつ固定に続いて、長さ 方向の可撓性は、移植による大動脈の自然の生理機能の 変動を最小にし、移植片を支持すら血管の部分の追従性 を維持するのを助ける。別々のリングも又、ステントの 基本的な円筒形構造を著しく変化させることなしに、互 いに対して僅かに回転させる能力に有している。従っ て、円筒形リングと連結要素によって、その長さ即ち長 さ方向軸線に沿って極めて可撓性であるが、均一な膨張 を提供し極めて安定で耐崩壊性がいるステントが得られ る。パターンによって供給される網状構造は、移植片を は、円筒形体に丸める前に、ステントの幅Wは約18m 40 適所に固定するため移植片を超えて延びたステントの部 分が取付けられる大動脈壁の領域への血液の灌流を可能 にする。このような灌流は、大助脈による合成プロテー ゼの同化を促進し、より詳細には治療部位の治癒を促進 する。このような設計の均一な半径方向の膨張により、 実質的な面外捩じれを生ずることなしに大きな直径に膨 張させることができるステントが得られる。何故なら ば、ある特定の領域に大きな応力が集中しないからであ る。むしろ、力は、山と谷との間に均一に分散され、円 筒形リングを均一に彫張させる。移植片およびステント 50 組立体の送出および配置の際にステントが受ける面外捩

じれを最小にすることは、血栓の形成の危険性を最小に する利点も備えている。本発明のステントの特別の膨張 特性により、移植片が最大横断面寸法を得たときでさ え、移植片の遠位位置または近位位置に膨張するステン トの部分が膨張し続け、動脈瘤の上方と下方で移植片お よびステント組立体を血管に確実に固定する。

【0015】応力分布の均一性は更に、ステントの特定 の領域又は円筒形リングに加えられる応力によりステン トが破壊する可能性を減少させる。この特徴は又、従来 の設計よりも大きく且つ速くステントを膨張させること 10 ができる能力に寄与する。膨張の際に半径方向の強度は 損なわれず、膨張が長さ方向の収縮を生じさせる度合い (従って、ステントの短縮)は最小である。1つ以上の ステントの完全な取付けを確保し、治癒させつつ内皮組 織の成長による大動脈壁へのステントの同化を可能にす るため、刺以外の種々の形状および形体で取付け要素即 ちアンカー20を提供することができることを認識すべ きである。ステンレス鋼のステントを製造することがで きる種々のプロセスの詳細は、米国特許出願第08/1 75,214号および同第08/164,986号に記 20 載されている。簡単に言うと、ステンレス鋼のステント は、平らなシート又はチューブ片から化学的エッチング 処理によって製造される。残るステンレス鋼の領域は、 金属を化学薬品に曝したときに鍜の非保護領域と化学薬 品との反応によってパターン構造の開口または網が形成 されるように、エッチング法で使用される化学薬品に抵 抗する物質で領域を被覆することによって識別される。 エッチング法は、ここで意図した小さな寸法の製品が製 造されるときに他の方法の特徴となるバリなどのない開 口をシート又はチューブに発生させる。電解研磨は、ス テント表面を研磨するために化学的エッチングで仕上げ た後に使用するのがよい。ステント表面は、約0.00 13~0.000254(5~10マイクロインチ)に 研磨される。

【0016】ステンレス鋼のような材料の平らなシート を化学的にエッチングして本発明のステントにするのに は多くの利点がある。例えば、化学的エッチングは、同 じ平らなシート上で同時に多くのステントを化学的にエ ッチングすることができるので、経済的である。化学的 エッチング法では、バリが形成されず、一方の側のみを 電解研磨することによって、ステントの最終的な内径の 表面仕上げを改良することができる。さらに、化学的エ ッチングは、処理すべき部分を過剰に熱処理しない。ス テンレス鋼チューブの化学的エッチングとは異なり、平 らなシートでは、原料の壁厚と粒子構造は均一となる。 さらに、平らなシートでは、エッチングの面を制御する ことができるのに対し、チューブをエッチングするとき ステンレス鋼材料の平らなシートから本発明のステント

エッチング"として知られている大法を使用することが できることである。例えば、図30取付け要素又は刺2 0の領域にステップ・エッチングを使用することによっ て、ステントが膨張したとき刺が外方へ曲がるように、 材料の部分を除去することが可能である。換言すれば、 ステップ・エッチングは、所望の選択領域における材料 の除去を可能にするので、ステントの半径方向膨張時 に、刺が外方へ曲がって大動脈壁に係合するように、材 科の少ない領域が曲がり或いは変形する傾向を有してい る。

10

【0017】ステントを製造するのに、金属シート又は チューブに加えられる化学抵抗被罪を除去するコンピュ ータ制御式レーザーバターン法を用いて、写真平版技術 を使用することもできる。ステントパターンを反復しス テントを相互に連結する小さなウェブ又はタブを提供す ることによって、1つのシート又はチューブから複数の ステントを形成することができる。エッチング処理の 後、小さなウェブ又はタブを切断することによって、ス テントを分離することができる。引き続き、ステントが シートで形成されている場合には、個々のステントを丸 め、縁部を溶接して円筒形体にする。本発明のステント を製造する更に別の方法は、一般に知られている放電機 械加工法(EDM)による。EDMを使用して、ステン レス鋼を平らなシート又はチューフの部分から形成する ことができる。ステント10を製造する或る好ましい方 法では、ステント10及びアンカー20をステンレス鋼 の平らなシート又はチューブからり断するのに、レーザ 一が使用される。レーザーの設定は、切断すべきステン トの材料、形状及び最終的な使用はに応じて、大きく変 動する。米国特許出願第08/233,046号(小さ な物体をレーザー切断するための方法および装置)に記 載されているレーザー切断法が、レーザーを使用するス テント製造法に関して特に有益である。

【0018】本発明のステント10を、ステンレス鋼の ような蛍光透視検査で検出するのか難しい材料で形成す るときには、配置の際、移植片およびステント組立体の 位置を識別する放射線不透過性マーカーを有するのが望 ましい。本発明のステント10は、金、銀、プラチナ、 タンタル等のような放射線不透過性の金属フィルムで被 40 覆することができる。本発明のステントを放射線不透過 性マーカーで被覆する1つの方法が、米国特許出願第0 8/233,046号に開示されている。本発明のステ ントを移植片送出システムに組み込む1つの好ましい方 法が、図8~図10に示されている。送出システム50 は、ステント56、58を介して腹部大動脈の動脈瘤の 部位にチューブ状移植片52を配置するのに使用され る。ステント56、58の構造、ステントを製造する材 には、内径に厚い部分、外径に薄い部分が形成される。・・・・料、ステントを形成するのに使用される方法は、図1~ 図7に関連して詳細に記載されている。 ステントのかか を化学的にエッチングする重要な利点は、"ステップ・ 50 る使用は、周知のチューブ状移植片および分岐移植片を

12

含む種々の移植片について達成されることを意図してい る。実質的に短縮させることなしに微小直径から大きな 直径まで膨張する本発明のステントの能力のため、比較 的短い長さを使用することができる。移植片は、横断面 が大動脈の健康な部分の横断面と実質的に合致するよう に寸法決めされている。

【0019】送出システム50は、ステント及び血管を 治療する他の補形品を配置するための他の経皮措置にお いて使用されるマルチルーメンカテーテル60を有して いる。カテーテルは、その長さに沿って延びた第1のル 10 システムを使用することもできる ーメンを有し、第1のルーメンは、カテーテルの遠位端 に配置された2つの膨張可能な部材すなわちバルーンと 連通している。バルーンは、システムを使用して配置す ることを意図している最短の移植片の長さよりも僅かに 短い距離、間隔を隔てられている。バルーンを膨らま せ、バルーンのまわりに配置されるものに外向きの半径 方向力を及ぼすため、加圧流体すなわちガスがバルーン ルーメンに導入される。ステント56、58を移植片5 2に取付けた後、カテーテル60の遠位端に移植片およ びステント組立体が装荷される。移植片およびステント 組立体は、各ステントがバルーン62の上に位置し、移 植片が2つのバルーン間のカテーテルの部分に載り且つ この部分と実質的に共軸になるように、位置決めされて いる。配置機能が達成されるまで移植片がこの位置に確 実に留まるようにするために、送出システム50の患者 への挿入前に、2つのステントがパルーンに押しつけら れ或いは"クリンプ"される。膨張可能な部材間に設け られた出っ張り又はカラーの間にステントを位置決め し、移植片およびステント組立体の側方移動を拘束する ことによって、移植片およびステント組立体を固定する ことができる。或いは、生物分解性の接着剤を使用して ステントをバルーンに一時的に固定してもよく、この接 着剤は、移植片を配置しようとするときに生物分解され 身体によって吸収される。

【0020】カテーテル60には更に、シース64が設 けられており、シース64は、移植片およびステント組 立体をカテーテルに保持するのを助け、かつ、送出シス テムを冶療部位まで前進させる際に組立体と血管壁との 直接接触を回避してステントの尖った縁部から患者の脈 管系を保護する。配置時に患者の体外から医師が操作し、40 て(近位位置に)収縮させることができるように、ロッ ド又はワイヤ66又は他の適当な機械的要素がシースに 連結され、カテーテルの長さに沿って近位位置に延びて いる。或いは、カテーテルの長さ全体を横断するシース を設け、患者の体外から(近位位置に)収縮させて移植。 片およびステント組立体を露出させてもよい。 カテーテ ルは、ガイドワイヤ68が貫通する第2のルーメンを有 している。ガイドワイヤは、移植片送出手順の予備段階 として動脈瘤54の部位を超えて患者の脈管系内を前進。

後、移植片およびステント組立体を撤送するカテーテル は、ガイドワイヤ上を繰り出される。移植片およびステ ント組立体を動脈瘤まで送るカテーテルの特定の形態に ついて説明してきたが、種々の形体を有するカテーテ ル、ワイヤ、ロッド等を使用して同じ機能を首尾よく果 たすことができることは、動脈瘤及び同様な症状を治療 する分野および経皮カテーテルの設計の分野における当 業者にとっては明白であろう。例もば、上述の送出シス テムにおいて、周知の固定ワイヤャよび急速交換ワイヤ

【0021】取付け要素すなわち!刊20が、ステント5 8の長さに沿って設けられ、最終的に、移植片およびス テント組立体を脈管内膜すなわち、大動脈壁の領域に取付 ける。刺は、移植作業が進行し、いつ、身体が内皮細胞 の成長により移植片およびステント組立体に自然に同化 する前に、移植片およびステント;且立体を固定する。ス テント56、58は、ステープルによって移植片52の 端部に固定することができる。エボキシレジン等の生物 学的適合性のある接着剤のような心の適当な手段を使用 20 して、ステント56、58を移植。〒52に取付けてもよ い。或いは、ステントを移植片のjf定箇所に縫いつけて もよい。ステント56、59の少はくとも一部が移植片 52から延びており、移植片およびステント組立体を突 き合わせ接合によって接合する場合には、ステントの実 質的に全てが移植片から延びている。図8には、ガイド ワイヤ68の遠位端を除いた、移植片送出システム50 の要素の全てが、移植片52およびステント56、58 が配置される前の動脈瘤54の近行位置に位置決めされ た状態で示されている。カテーテル60のシース64 30 は、バルーン62のまわりに配置された移植片およびス テント組立体を被覆しており、ガリドワイヤの遠位端 は、助脈瘤に置されている大動脈に領域に入っている。 図9では、シースが(近位位置)に回収されて移植片お よびステント組立体を露出させ、ファテーテルは、移植片 およびステント組立体が動脈瘤を持ぐように繰り出され ている。バルーン6.2は、患者の体外の加圧流体すなわ ちガス源によって膨らませられ、バルーンの膨張を伴う 半径方向力が加えられて移植片とパテントを半径方向外 方に彫張させ、動脈瘤の近位位置に遠位位置で両方の要 素を大動脈壁72に押しつける。ステント58に設けら れた刺20は、大助脈壁72に埋む込まれた状態にな り、下流の動脈血圧に抗して移植片およびステント組立 体を固定し適着させる。図10では、送出装置が回収さ れ、移植片およびステント組立体は、動脈瘤を横切る最 終位置にあり、大動脈壁72の健康な組織に取付けられ ている。チューブ状移植片52が影猥するとき、延伸し 或いは変形せず、閉鎖直径から開放膨張直径に単に開放 することを理解すべきである。移植片の材料は一般に非 弾性であり、E. I. デュポン・デネマース社によって させるのに好都合である。ガイドワイヤを位置決めした。50 商標 "DACRON" として販売されているポリエチレ

ンテレフタレート、同社によって商標 "TEFLON" として販売されているポリテトラフルオロエチレン、および他の適当なポリマー材料から作られるポリエステル 繊維のような、身体に適合する多くの材料で形成することができる。

【0022】本発明によるステントを移植片送出システ ムに組み込んだ別の好ましい方法が図11および図12 に示されている。この実施の形態は、図8~図10では 2つのステントが使用されているのに対し、図11およ び図12では移植片を固定するに単一のステントが使用 されている点で、図8~図10に示したものと異なる。 単一のステントは、血圧が100mm/Hgを超え、移 植片の近位端でアンカーステントを必要とすることなし に移植片の近位端を適所に保持するのに十分である大動 脈において適している。送出システム80(図11およ び図12)は、腹部大動脈の動脈瘤54の丁度近位位置 にある状態で示されている。単一のステント82の近位 端が、ステーブル、接着剤、縫いつけ、或いは上述のよ うな他の適当な手段によって、移植片52の遠位端に取 付けられている。カテーテル60に移植片およびステン ト組立体が取付けられ、ステントは、パルーン62にク リンプされ或いは押しつけられている。収縮可能なシー ス64は、脈管系を通る送出の際、シース64を近位位 置に回収して組立体を配置するまで、移植片およびステ ント組立体を被覆し保護する。刺20は、移植片および ステント組立体を大動脈壁72に取付けるように、最も 遠位位置の円筒形要素 12 から延びている。図11 およ び図12を参照すると分かるように、ステントは、移植 片から実質的に延びるように移植片の遠位端に固定され ており、その結果、カテーテル60のパルーン62の膨 張によって半径方向外方の力がステントに加えられ、と れと同時に、移植片52に膨張力が加えられる。 ステン トは移植片と同時に膨張し、刺20を動脈瘤54の遠位 位置で大動脈壁20の健康な組織に押しつけ、移植片お よびステント組立体を血管に固定する。

【0023】移植片送出システムにおいて本発明のステントを使用する別の実施の形態が、図13および図14に示されている。送出システム90は、移植片52と共軸のステント92を有しており、ステント92は、ステント92の第1の部分が移植片52の近位位置に延びるように、移植片52を超えて延びている。ステント92の第1の部分96が移植片に遠位位置に延びるように、移植片52を超えて延びている。ステント92の第1の部分94および第2の部分96の円筒形要素は、図1により明瞭かつ詳細に示されているように、刺20を備えており、患者の身体が補形品を受け入れる状態で移植片およびステント組立体を健康な大動脈壁に固定するように配置するとき、刺20に依存する。パルーン98は必ず、ステント92の長さ方向軸線に沿って測ったときの長さが上述の実施の形態のパルーンよりも長くなければならない。何故ならば、この実施の形態のステントが、

図8~図12の実施の形態で使用された移植片およびステントを送出する好ましい方法において用いられる2つのステントのいずれかの長さの少れくとも2倍であるからである。図14に示されるように、ステント92及びその上に位置する移植片52は、移植片が動脈瘤54を跨ぐように、位置決めされている。次いで、パルーン98を加圧流体すなわちガスで膨らさせ、移植片とステントを同時に膨張させ、動脈瘤の遠位位置で刺20を大動脈壁72に押しつける。次いで、形況部材を袭ませ、移植片およびステント組立体を血管の適所に残した状態で送出システムを回収する。

【0024】図15を参照すると、脈管内多アンカース テントの変形形態が示されており、ステント110を形 成する複数の円筒形リング112が、連結部材114に よって互いに連結されており、移植片122内に固定す べきステントの端部117のとこれで少なくとも1つの 円筒形リングの山116が、ステントの端部117から **遠去かる方へステントの長さ方向の中間に向いた刺12** 0を有している。脈管系に固定すべきステントの対向端 124のところでの刺120は、 ニテントの端部124 から遠去かる方へ反対方向にステントの長さ方向の中間 の方へ向いており、ステントは、形管系と移植片を同時 に把持して、脈管系に対して移植におよびステント組立 体を適所に保持する。図16を参属すると、脈管内多ア ンカーステントの別の変形形態が示されている。この拡 大図では、ステント130の表面に、円筒形リング13 2の山136と谷138の表面を含む円筒形要素132 および連結部材134の表面に形成された刺140で覆 われ、ステントの表面の尖った指向性の隆起のサンドベ ーパー効果を提供する。図17にデされるように、ステ ントが膨張したとき、刺が外方に向いて脈管系の部分が ステントと接触する箇所をステントが良好に把持するよ うに、円筒形リングの山と谷の外組部に多数の刺142 を形成してもよい。

【0025】移植片を移植して動脈瘤を治療するための 体内補形術としての使用に関連して本発明について説明 してきたが、身体の他の脈管にステントを使用すること ができることは当業者には明白であろう。本発明のステ ントが、新規な特徴の取付け要素と、比較的小径から比 40 較的大径に迅速に膨張する能力を有しているので、ステ ントは、このような装置を使用することができる殆どの 全ての脈管での移植に対して良好に適合する。かかる特 徴は、ステントが半径方向への膨張後は大幅に収縮した り解けたりしないという事実とともに、他の体内補形術 について極めて良好な支持部材を提供する。 上述の記載 において、特定の寸法に関連する記述は単なる例示にす ぎず、本発明の原理に従って他の同様な寸法も適してい ることは、当業者には明白であろう。従って、本発明の 特定の形態について記載している上述のことから、本発 50 明の精神および範囲から逸脱することなしに、種々の修 15

正および改良を行うことができることは明白である。従 って、本発明は、添付の特許訥求の範囲以外によって限 定されることを意図していない。

【図面の簡単な説明】

【図1】円筒形体に丸める前の多アンカーステントの平 面図である。

【図2】円筒形体に丸めた図1のステントの一部の斜視 図である。

【図3】図1のステントの拡大部分平面図である。

【図4】非膨張形体における図1のステントの一部の平 10 である。 面図である。

【図5】図4の線5-5に沿ったステントの部分の立面 図である。

【図6】膨張形体における図1のステントの一部の平面 図である。

【図7】図6の線7-7に沿ったステントの部分の立面 図である。

【図8】ステントおよび移植片を送出し配置するため、 移植片および送出システムに組み込まれた―対の多アン カーステントの部分断面立面図である。

【図9】移植片およびステント組立体が助脈瘤の領域に 進められ配置されステントが配置された後の、図8の多 アンカーステント、移植片送出システムの部分断面立面 図である。

【図10】組立体が配置されカテーテルが回収された後 の、図8の移植片およびステント組立体の部分断面立面 図である。

【図11】動脈瘤の領域へ移植片およびステント組立体 を繰り出す前の移植片送出システムを示す、移植片送出 システムに本発明のステントを組み込むアンカー手段の\*30 62 バルーン

: お分断面立面図である。

【図12】移植片およびステント、出立体を繰り出し、動 脈瘤の領域に部分的に配置した後の、図11の送出シス テムの部分断面立面図である。

【図13】移植片およびステント:出立体の配置前を示 す、移植片送出システムに本発明・Dステントを組み込む 別のアンカー手段の部分断面立面図である。

【図14】移植片およびステント。私立体の配置の際のシ ステムを示す、図13の送出システムの部分断面立面図

【図15】一端に一方向に向いた!川と、他端に反対方向 に向いた刺とを有する、本発明のステントの変形形態の 一部の斜視図である。

【図16】ステントの円筒形要素の山と谷の表面に複数 の刺を有する、本発明のステントの別の変形形態の拡大 部分平面図である。

【図17】ステントの円筒形要素の山と谷の外縁部に複 数の刺が設けられた、本発明のステントの別の変形形態 を示す、図16と同様な拡大部分平面図である。

20 【符号の説明】

10 脈管内多アンカーステント

12 円筒形リング

14 相互連結具

16 Ш

18 谷

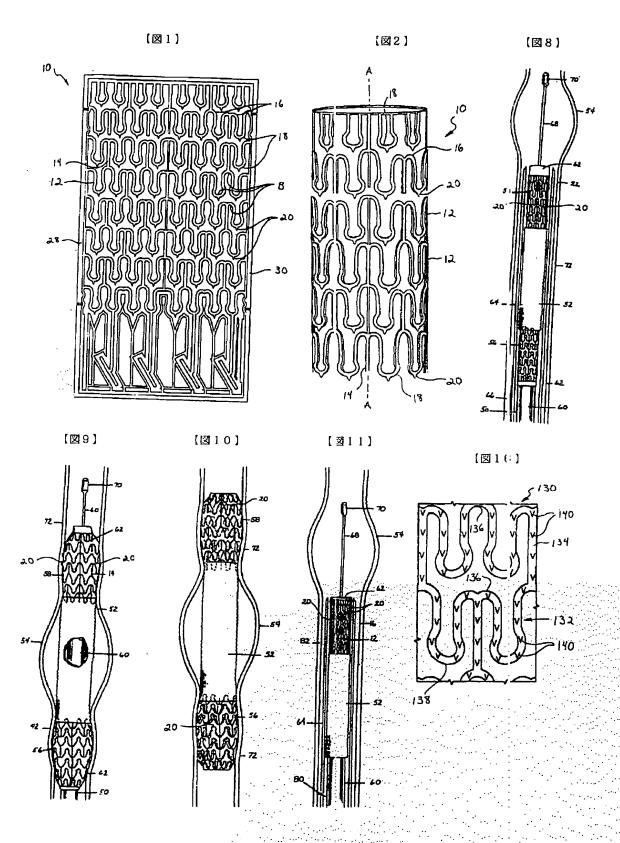
50 送出システム

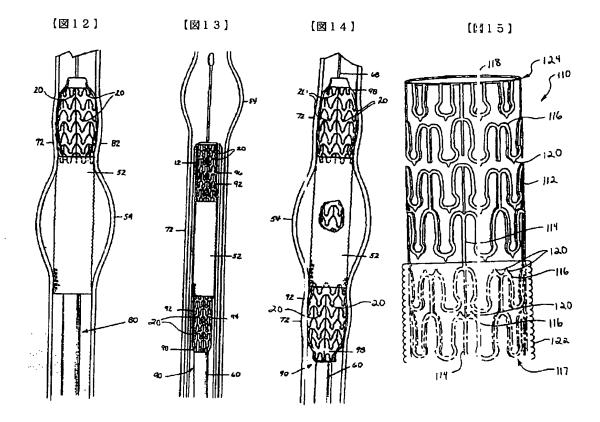
52 移植片

56、58 ステント

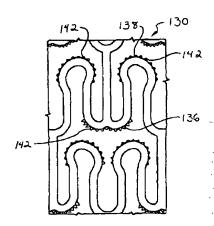
60 カテーテル

【図3】 【図4】 [図5] 図6】 【図7】





【図17】



フロントページの続き

(72)発明者 ピーター エス ブラウン アメリカ合衆国 カリフォルニア州 94041 マウンテン ヴィュー デルマー ドライヴ 57 [72]発明者 ジェフリー エイ オース アメリカ合衆国 カリフォルニア州 94018-2073 エル ジラナダ コロンバ ス ストリート 246

### 【外国語明細書】

1. Title of Invention

MULTI-ANCHOR STEN'C

## 2. Claims

 An intravascular multi-anchor stent for implanting in a body lumen comprising:

a plurality of c/lindrical elements which are substantially independently expandable in the radial direction and which are interconnected so as to be generally aligned on a common longitudinal axis; and

a plurality of said cylindrical elements has at least one barb that faces partially radially outwardly when the multi-anchor stent is in an expanded configuration for attaching the stent to the body lumes.

- 2. The intravamentar multi-anchor stent of Claim 1, wherein each of the cylindrical elements has a plurality of barbs that face radially outwardly when the multi-anchor stent is in an expanded configuration for attaching the stent to the body lumen.
- 3. The intravamentar multi-anchor stent of Claim 1, wherein each of the barbs faces in alignment with the common longitudinal axis when the multi-anchor stent is in an unexpanded configuration.
- 4. The intravascular multi-anchor stent of Claim 1, wherein each said cylindrical element has a plurality of barbs.

5. The intravascular multi-anchor stent of Claim 5, wherein each of said plurality of cylindrical elements has a serpentine shape with a plurality of peals and valleys, and each of said peaks and valleys has a

plurality of barbs, with each of said barbs of each said cylindrical element being adapted to face substantially in the same direction when said stent is in said expanded configuration, to provide a directional gripping action.

- 6. The intravascular multi-anchor stent of Claim 5, wherein said barbs of at least one said cylindrical element at one longitudinal end of said stent face in a first direction, and said barbs of at least one cylindrical element at an opposing longitudinal end of said stent face in an opposing direction when said stent is in said expanded configuration.
- 7. The intravascular multi-anchor stent of Claim 7, wherein said barbs at said one longitudinal and and at said opposing longitudinal end are pointed toward a longitudinal middle portion of said stent when said stent is in said expanded configuration.
  - 8. An intravascular multi-anchor stent for implanting in a body lumen, comprising:
  - a plurality of cylindrical elements which are substantially independently expandable in the radial direction and which are interconnected so as to be generally aligned on a common longitudinal axis; and
  - a plurality of raised, pointed direction bumps formed on a surface portion of plurality of cylindrical elements.
  - 9. The intravascular multi-anchor stent of Claim 9, wherein each of said plurality of cylindrical elements has a serpentine shape with a plurality of peacs and valleys, and each of said peaks and valleys has a

plurality of barbs, with each of said barbs of each said cylindrical element being adapted to face substantially in the same direction when said stent is in said expanded configuration, to provide a directional gripping action.

## 3. Detailed Description of Invention

## BACKGROUND OF THE INVENTION

## Field of the Invention

This invention relates generally endoprostheses and, more particularly, concerns intraluminal grafts and stents for placement in an area of a body lumen that has been weakened by damage or disease, such as by an aneurysm of the abdominal aorts.

## Description of Related Art

An abdominal aortic aneurysm ("AAA") is an abnormal dilation of the arterial wall of the aorta in the region of the aorta that passes through the abdominal cavity. The condition most commonly results from atherosclerotic disease. Frequently, abdominal aortic aneurysms are dissecting aneurysms that are formed when there is a tear or fissure in the arterial lining or wall through which blood is forced and where it eventually clots, forming a thrombosis that swells and weakens the vessel. Abdominal aortic aneurysms do not cause pair, but are easily detected ir a thorough physical examination. If the aneurysm is not detected and treated, it is likely to rurture and cause massive hemorrhaging fatal to the patient.

Treatment of AAAs typically takes the form of arterial reconstructive surgery. One such method is bypass surgery in which an incision is made into the abdominal cavity, the aorta is closed off above and below the site of the aneurysm, the aneurysm is resected, and a synthetic graft or tube sized to approximate the diameter of the normal aorta is sutured to the vessel to. substitute for the area affected by the aneurysm and to allow blood flow through the aorta to be re-established. The graft commonly is fabricated of a biocompatible material that is compliant and thin-walled. Nylons and 

synthetic fibers such as those manufactured by the B.I duPont deNemours Company under the trademarks DACRON or TEFLON have been found to be suitable for the construction of the graft. Studies have shown that the mortality rate associated with this surgical procedure is favorable (less than 5%) when it is performed prior to rupture of an aneurysm. However, patients having an AAA are typically over 65 year of age, and often have other chronic illnesses which increase the risk of perioperative or post-operative complications. patients thus are not ideal candidates for this type of major surgery. Further, it has been pointed out that this procedure is not often successfully resorted to after an aneurysm has ruptured (the mortality mate increases to over 65%), because of the extensivenes; of the surgery and the time required to prepare a pathent for it.

Another procedure developed as an alternative to conventional surgical methods involves placement  $\alpha \mathbf{f}$  a graft at the site of the aneurysm. The graft is deployed there by being routed through the vascular system carried by a catheter, wire or other device suitable for negotiating the vasculature. The graft and its deployment system often are introduced into the blood stream percutaneously with a femoral approach, and the entire procedure can be performed using local, rather than general, anesthesia. Once the graft has been positioned at the aneurysm, it is disengaged from the delivery system and can be affixed to the aortic wall both distally and proximally of the aneurysm. For this purpose, grafting systems usually include fixation means such as staples or hooks which can be manipulated and driven into the intima of the vessel via some mechanical feature of the system or, alternatively, by some physical process, such as expansion of the graft through application of a pressure or temperature change. To avoid premature detachment of the graft and to prevent

the attachment elements from damaging the vessels or halting the forward movement of the system while the graft is being routed to the treatment site, the systems often are provided with a feature such as a capsule or a sheath that protects and contains the graft until such time as deployment is desired.

Once the graft is in place, it is positioned in the vessel spanning the site of the aneurysm such that the walls of the graft are generally parallel to the walls of the affected area of the aorta. The aneurysm thus is excluded from the circulatory system by the graft, rather than being resected altogether.

Grafting systems are known that include what commonly is referred to as an attachment system for deploying the graft. The attachment system typically is a tubular device which is fitted inside and is generally coaxial with the graft, and can extend beyond either or both of the proximal and distal ends of the graft. The attachment system often has a lattice-like or open weave structure, which provides it with flexibility and which promotes rapid endothelial tissue growth through the structure once the graft has been deployed. It may be provided with additional hook-like elements penetration of the intimal walls for attachment of the graft to the aorta, or those hook-like elements may be provided on the graft itself. Graft systems of the type described can be found in U.S. Patent Nos. 4,787,89%; 4,104,399; 5,219,355; and 5,275,622.

The actual function of delivering the graft may be accomplished by inflating a balloon of a catheter by introducing pressurized fluid into a lumen of the catheter from a source external to the patient... Inflation of the balloon applies a force to the graft, and any attachment system supplied therein, which extends radially and presses the graft and attachment system into the vessel wall just above and just below the aneurysm. When an attachment system is used, disengagement of the .., alsenga

catheter from the graft also has been accomplished by taking advantage of the chemical properties of the material from which the attachment manufactured. For example, a prior art attachment system may be in the form of a coil of a nickel-titanium alloy, available from the Minnesota Manufacturing and Mining Co. under the mark "NITINOL", that will expand radially upon being heated to a higher temperature. The longitudinal dimension of any attachment system used must account for any reduction in length that might result from radial expansion of the device. Other devices used to attach a graft to the aortic wall for AAA repair include intravascular stents of the type found in U.S. Patent No. 4,733,665.

In order for a stent to be used most advantageously with a graft deployment system for treatment and repair of aneurysms, it is desirable for the stent to be composed of a Diocompatible material and simultaneously to be flexible enough to comply with the catheter or other element used to route the graft through the often tortuous vascular path to the site of the aneurysm, and strong enough radially to maintain patency of the opening in the graft once delivered. The stent should be well suited to deployment by a delivery system that is not overly complex, and that is reliable and easy to operate. Further, it is desirable that the stent be expandable, so that upon application of a force or physical change from within sufficient to cause its radial expansion, it encourages affixation of itself and the graft to the aortic walls. Although various graft delivery systems have been proposed, none adequately provides all of the desirable features.

Proper anchoring of a stent for treatment of endovascular abdominal aortic aneurysm (AAA) is essential for securing a graft. Heretofore, exact placement of an anchoring stent with anchors located solely at one part of the stent was critical for properly securing the stent

for repairing the abdominal aortic aneurysm. In addition, it is possible for the area of the aorta where anchoring barbs of such a stent were deployed to be not healthy enough to properly secure the entire device. It also is desirable for a multi-anchor stent to have anchors or barbs that present as small as possible of an increase in the insertion diameter of the unexpanced stent to provide a low profile during placement in the abdominal aortic aneurysm.

What has been needed and has been heretofcre unavailable is a stent for use in combination with a graft which has a high degree of flexibility for efficient advancement through tortuous passageways, which can be radially expanded from a relatively small insertion diameter (low profile) to a relatively large diameter without substantial longitudinal contraction, and which exhibits mechanical strength sufficient to adhere to the vessel walls and to maintain the patency of a synthetic graft implanted at the site of an aneurysm. The present invention meets these needs.

## SUMMARY OF THE INVENTION

Briefly, and in general terms, the present invention provides for a multiple-anchor stent for use with catheter-graft delivery systems for repairing diseased or injured vessels, and most notably for treating aneurysms, especially aneurysms of the abdominal aorta. The multiple-anchor stent provides a plurality of barbs throughout the entire circumference of the stent that face partially outwardly when the stent is in an expanded condition, so that exact placement of the anchors is less critical, and making it more likely that the stent will be anchored in healthy tissue, allowing the stent to be properly anchored in the abdominal aortic aneurysm. The large number of barbs on the multiple-anchor stent also allows the barbs to be made smaller,

reducing the insertion diameter of the stent, while suill providing effective anchoring. The multiple-anchor stent of the invention is expandable, so that a low profile can be maintained while the graft-and-stent combination is being routed to the aneurysm, and then expanded at the time of deployment to a diameter roughly approximating the diameter of a healthy abdominal aorta and the final diameter of the tubular-shaped graft. The multipleanchor stent of the present invention has a configuration that allows the stent to expand radially to a much larger diameter than was heretofore possible, and is provided with hocks or barbs along the entire circumference of the stent to penetrate the aortic wall at least above the aneurysm to help ensure that the graft is anchored in healthy tissue. The multiple-anchor stent is somewhat flexible along its longitudinal axis to facilitate delivery to the treatment size through tortuous blood vessels, but in the expanded condition the multipleanchor stent is sufficiently stable radially to maintain the patency of the graft and aorta and to attach the combined structure to the aortic walls.

As used herein, the term "proximal" refers to a location near a point of reference outside the patient, such as an origin or a point of attachment of a catheter, and the term "distal" refers to a location away from the point of reference outside the patient, such as near the portion of the catheter, stent or graft farthest away from the point of reference outside the patient.

The invention accordingly provides for an intravascular multi-anchor stent for implanting in a body lumen. The multi-anchor stent includes a plurality of cylindrical elements that are substantially independently expandable in the radial direction and that are interconnected so as to be generally aligned on a common longitudinal axis, and a plurality of the cylindrical elements has at least one barb that faces partially outwardly when the multi-anchor stent is in an expanded

configuration for attaching the stent to the body lumen. In a currently preferred embodiment, each of the cylindrical elements has a plurality of barbs that face partially outwardly when the multi-anchor stent is in an expanded configuration for attaching the stent to the body lumen. In another preferred aspect of the invention, each of the barbs faces in alignment with the common longitudinal axis when the multi-anchor stent is in an unexpanded configuration. A plurality of connecting elements are provided for interconnecting only the cylindrical elements that are adjacent to each other so that the stent, when expanded in the radial direction, retains its overall length without appreciab e shortening. In a preferred aspect of the invention, the plurality of connecting elements between adjacent cylindrical elements are in axial alignment. currently preferred embodiment, the cylindrical elements can be formed from a single piece of tubing, and in another currently preferred embodiment, the cylindrical elements are formed from a flat sheet of material that can be rolled into a cylindrical configuration from the flat sheet of material. In another preferred aspect of the invention, when made from a flat sheet of material, the flat sheet of material can have a first longitudinal support bar and a second longitudinal support bar which mate when the stent is rolled into the cylindrical configuration, and the flat sheet of material can have a first longitudinal edge with a plurality of first lap joints and a second longitudinal edge with a plurality of second lap joints, the first lap joints and the second lap joints engaging in a mating relationship when the stent is rolled into the cylindrical configuration. In a currently preferred embodiment, the multi-anchor stent is formed of a biocompatible material selected from the group consisting of stainless steel, tantalum, and thermoplastic polymers.

In one preferred empodiment, a multiple-archor stent is attached to the distal end of a tubular graft such that at least a portion of the multiple-anchor stent is exposed distally beyond the distal end of the graft. The graft-and-stent are deployed intraluminally such that the multiple-anchor stent and the distal end of the graft are positioned distally of the aneurysm while the proximal end of the graft extends proximally of the aneurysm. The multiple-anchor stent is provided with a plurality of barbs along the length of the stent that face outwardly when the stent is in an expanded configuration for penetrating healthy tissue in the aortic wall in order to attach the graft-and-stent combination to the aortic wall.

Thus, in one embodiment, a pair of multipleanchor stents can be attached to a tubular graft, one stent at the proximal end and one stent at the distal end of the graft. The stents can be oriented so that when both the graft and the stents are expanded to larger diameter states, the stents will be coaxial with the The cylindrical elements of the stent are graft. provided with anchors for penetrating healthy tissue in the walls of the aorta above and below the aneurysm, as well as along at least a portion of the length of the graft, to aid in attaching the combined structure to the aortic wall. The anchors can be barbs, and can be of various shapes, containing one or more angles, so that the anchors effectively will anchor the graft-and-stent combination to the aortic wall.

The graft-and-stent combination readily can be delivered to the aneurysm by mounting it on a balloon portion of a delivery catheter, and passing the catheter-graft-stent assembly through the vasculature to the implantation site. A variety of means can be used for securing the graft-and-stent combination to the catheter during delivery. Presently, it is preferred to compress

the stent onto the balloon and retain the stent on the graft on the balloon using a protective sheath.

These and other aspects and advantages of the invention will become apparent from the following detailed description, and the accompanying drawings, which illustrate by way of example the features of the invention.

# DETAILED DESCRIPTION OF THE PREFERRED EMBODIMENTS

Exact placement of an anchoring stent with anchors located solely at one part of the stent was heretofore critical in properly securing the stent for repairing an abdominal aortic aneurysm. It also is possible that the area of the aorta where anchoring barks conventionally would be deployed would not be healthy enough to properly secure the entire device.

With reference to the drawings provided for illustrative purposes, the invention accordingly provides for an intravascular multiple-anchor stent for use with catheter-graft delivery systems for repairing diseased of injured vessels, and most notably for treating aneurysms especially aneurysms of the abdominal aorta. With reference to Figs. 1-7, in a currently preferred intravascular multiple-anchor stent 10 the invention which generally comprises a plurality of cylindrical rings 12 that are spaced closely enough together to allow the stent to provide a reliable means of attaching a graft at the treatment site, but are not so tightly

spaced as to inhibit the flexibility of the combination. cylindrical rings are connected together connecting members 14. Each cylindrical ring typically has a serpentine configuration or wave pattern, having a series of alternating peaks 16 and valleys 18. degrees of curvature indicated by arrows B along adjacent peaks and valleys are different. Attachment elements or anchors 20, shown in Fig. 1 in the form of barbs, can be provided on the ends of a plurality of the outwardly facing arches of valleys 18 in the rings that rotate outwardly when the stent is expanded, to engage with the aortic wall when the stent is deployed, so that eacı of a plurality of cylindrical elements has at least one parb that faces partially outwardly when the multi-anchor stent is in an expanded configuration for attaching the stent to the body lumen. In a currently preferred embodiment, as is illustrated in Fig. 1, each of the cylindrical elements has a plurality of barbs that dace partially outwardly when the  $\pi$ ulti-anchor stent is in an expanded configuration for attaching the stent to the body lumen. As is shown in Fig. 1, the configuration of the barbs is preferably such that a barb is placed on each outwardly facing arch of the valleys 18, so that in a currently preferred embodiment, the stent currently has eight valleys per ring, providing eight anchors per ring.

The expansion properties of stainless steel make it a preferred material for the stent 10. As is described more fully below, the stent, including the barbs 20, can be formed from a flat sheet of material by chemically etching, laser cutting, or electronic discharge machining (EDM), and the like. It also is contemplated that the barbs can be formed independently of the stent and subsequently attached to it by welding, brazing or another process with the equivalent effect. The body of the stent has a width W and a length L, such that the length will be parallel with the longitudinal axis a of the stent when the body of the stent is rolled into a cylinder. To secure the stent in a configuration as a cylinder, the lengthwise edges 28 and 30 of the stent body shown in Fig. 1 can be connected with a suitable means such as by welding, brazing, soldering or with adhesives. A yttrium aluminum garnet (YAG) laser is particularly suitable for welding lengthwise edges 28 30 together to form the body of the stent in a cylindrical configuration illustrated in Fig. 2.

In a presently preferred embodiment, it is contemplated that a stent with the dimensional characteristics described below would be suitable for use with a graft in AAA procedures, and with a variety of vascular anatomies. It is clear, however, that a stent with other dimensions equally might be useful in a graft delivery procedure. Preferably, stent 10 is formed from a flat sheet of stainless steel. For a flat sheet, prior to being rolled into a cylindrical shape, width W of the stent can be approximately 16 millimeters (0.63 inches), while length L of the stent can be in the range of about 5.1 to 50.8 millimeters (0.2 inches to about 2.0 inches). It is desirable for connecting members 14 to have a transverse cross-section similar to the transverse dimensions of the serpentine or undulating components of the expandable rings or bands. The maximum width at the base of each anchor or barb typically is about 0.30 millimeters (0.012 inches), and the length of the shaft each anchor or barb typically is about 0.51 millimeters (0.020 inches). As stated, these dimensions are preferred, but the selection of the most appropriate dimensions in a particular clinical situation may vary considerably from patient to patient.

After the stent 10 has been rolled and joined in a cylindrical configuration from a flat sheet, the stent can be uniformly expanded in a radial direction, both to a significant degree and without large variation in the level of diametric expansion of each cylindrical ring. The cylindrical rings 12 are transverse to the

longitudinal axis A of the finished stent, and the varying degrees of curvature B between peaks 16 and valleys 18 tend to equalize the stresses experienced by the stent during expansion, so that the peaks and valleys of each band deform radially with substantial uniform ty upon application of an expansion force. The unique structure of the stent permits the stent to increase from an initial, small diameter to any number of larger diameters. The interconnections 14 between adjacent cylindrical rings are aligned with other interconnections between the other cylindrical rings, such that the interconnections traverse the distance between the peaks 16 of consecutive cylindrical rings. Each of the barbs also preferably faces in alignment with the common longitudinal axis when the multi-anchor stent is in an unexpanded configuration. This manner of connection of cylindrical rings by interconnections 14 thus constrains shortening or contraction of the stent along its longitudinal axis during radial expansion about longitudinal axis A. This configuration also limits twisting of the stent upon expansion, and enhances more uniform expansion. The in-phase cylindrical ring patterns further are believed to reduce the likelihood that the stent or any portion of it will recoil, or collapse back to its starting diameter after deployment.

The number and orientation of interconnecting members 14 can be varied in order to maximize the desired longitudinal flexibility of the stent structure, both in the unexpanded and in the expanded condition. Flexibility is advantageous during deployment of the graft and stent because it improves the ease and safety with which the combination can be delivered through the vascular system to the aneurysm. Following affixation of the stent to the aortic wall, longitudinal flexibility minimizes alteration of the natural physiology of the aorta due to the implant and helps to maintain compliance of the portions of the vessel supporting the graft. The discrete rings also have the capacity to rotate slightly with respect to each other without causing any significant alteration of the tasic cylindrical structure of the stent. Accordingly, the cylindrical rings and connections cumulatively result in a stent that is very flexible along its length or longitudinal axis, but which provides uniform expansion and is very stable and resistant of collapse. The reticulated structure supplied by the patterning allows for the perfusion of arterial blood into the region of the aortic wall to which the portion of a stent extending beyond the graft is attached to anchor the graft in place. Such perfusion promotes assimilation of the synthetic prostheses by the aorta, and more generally, healing of the treated site.

The more uniform radial expansion of tais design results in a stent 10 that can be expanded to a large diameter without substantial out-of-plane twisting, because no high stresses are concentrated in any one particular region. Rather, the forces are evenly distributed among the peaks and valleys, allowing the cylindrical rings to expand uniformly. Minimizing the out-of-plane twisting experienced by the stent during delivery and deployment of the graft-and-stent combination also carries with it the benefit of minimizing the risk of thrombus formation. The special expansion characteristics of the stent of the invent: on also allow any portion of the stent that extends distally or proximally of the graft to continue to expand even when the graft has achieved it: maximum cross-sectional dimension, so as to more securely affix the graft-ardstent combination to the vessel above and below the aneurysm. 

The uniformity in stress distribution further reduces the likelihood that fractures in the stent will occur due to stresses applied to any particular region or cylindrical ring of the stent. This feature also contributes to the ability of the stent to be expanded to

a greater degree and at a faster rate than was feasible previously with other designs. Radial strength is not sacrificed upon expansion and the degree to which expansion causes longitudinal contraction, and thus a shortening of the stent, is minimal.

In keeping with the invention, it should be recognized that the attachment elements or anchors 20 can be provided in a variety of shapes and configurations other than barbs to insure adequate attachment of one or more stents, and to allow assimilation of the stent into the aortic wall of the aorta through endothelial tissue growth while the healing process is taking place.

Details of the various processes by which the stainless steel stent can be manufactured can be found in co-pending U.S. Serial Nos. [8/175,214 and 08/164,586. Briefly, the stainless steel stent can be formed by a chemical etch process out of a flat sheet or a piece of The areas of stainless steel to remain are identified by covering the regions with a material resistant to the chemicals used in the etching process, such that when the metal is exposed to the chemicals, the openings or reticles in the patterned structure are created by reaction of the chemicals with the unprotected areas of the steel. The etching process develops smooth openings in the sheeting or tubing devoid of burrs or other artifacts that can be characteristic of other processes when products of the small sizes contemplated here are manufactured. An electropolishing process may be used after the chemical etching is complete in order to polish the stent surface. The stent surface can be polished to an approximately 0.0013 to 0.000254 (5 tc 10 micro inch) finish. 

There are numerous advantages in chemically etching a flat sheet of material, such as stainless steel, into the stent of the present invention. For example, chemical etching is economical since a large number of stents can be chemically etched on the same

flat sheet at the same time. The chemical etching process creates no burns and the surface finish of the eventual inside diameter of the stent can be improved by electro-polishing on one side only. Further, chemical etching creates no extra heat treating to the parts that are being processed. The raw material wall thickness and grain structure is more uniform in a flat sheet as opposed to chemical etching a stainless steel tube. Further, in a flat sheet, the bevel of the etching can be controlled, whereas when tubing is etched, the bevel creates a thicker part on the inside diameter and a thinner part on the outside diameter.

An important advantage of chemical etching the stent of the present invention from a flat sheet of stainless steel material is that a process known as "step etching" can be used. For example, by using step etching in the areas of the attachment elements or barbs 20 in FIG. 3, it is possible to remove portions of material so that the barbs will bend outwardly when the stent is expanded. In other words, step etching allows for the removal of material in highly selective areas so that upon radial expansion of the stent, areas having less material will have a tendency to bend or distort, such as with the barbs bending outwardly to engage the aortic wall.

Photo-lithographic techniques also can be employed for the manufacture of the stents, using a computer-controlled laser patterning process to remove the chemically resistive coating applied to the metal sheet or tube. A plurality of stents can be formed from one length of sheeting or tubing, by repeating the stent pattern and providing small webs or tabs to interconnect the stents. After the etching process, the stents can be separated by severing the small webs or tabs. Subsequently, if the stents were formed on a sheet, the individual stents are rolled and the edges welded together to provide a cylindrical configuration. Yet

another method of making the stent of the present invention is by the commonly thown process of electronic discharge machining (EDM). Using EDM, the stainless steel stent can be formed from a flat sheet or from a section of tubing.

In one preferred method of making stent 1), a laser is used to cut the stent 10 and anchors 20 ou: of a flat sheet or piece of stainless steel tubing. The laser settings can vary widely depending on the material, the shape of the stent being cut, and the end use. the laser cutting method described in U.S. Serial No. 08/233,046, entitled "Method and Apparatus For Laser Cutting Small Objects," which is copending, is particularly instructive as to the manufacturing method of making stent 10 using a laser.

When stent 10 of the present invention is made from a material that is difficult to detect urder fluoroscopy, such as stainless-steel, it is desirable to incorporate radiopaque markers to identify the position of the graft-and-stent assembly during deployment. The stent 10 of the present invention can be coated with a metal film that is radiopaque, such as gold, silver, platinum, tantalum and the like. One method of coating the stent of the present invention with a radiopaque marker is disclosed in corending U.S. Serial No. 08/233,046.

One preferred method of incorporating the stant of the present invention into a graft delivery system is illustrated in FIGS. 8-10. Delivery system 50 is used to deploy tubular graft 52 at the site of abdominal acric aneurysm 54 via stents 56 and 58. The structure of stents 56 and 58, the materials from which the stents are made, and the processes that might be used to form the stents are set forth in detail in connection with the discussion of Figs. 1-7. It is contemplated that this use of the stent could be accomplished with a wide variety of graft types including well known tube grafts

and bifurcated grafts. Due principally to the ability of the stent of the invention to expand from a very small diameter to a much larger diameter without substantial shortening, a relatively short length can be used. The graft system is sized so that its cross-section substantially matches that of the healthy portion of the aorta.

Delivery system 50 includes multilumen catheter 60 of the type used in other percutaneous procedures for deploying stents and other prostheses to repair portions of blood vessels. The catheter has a first lumen extending along its length which is in communication with two expandable members or balloons disposed at the distal end of the catheter. The balloons are spaced apart for a distance that is slightly less than the length of the shortest graft intended to be deployed using the system. Pressurized fluid or gas can be introduced into the balloon lumen to inflate the balloons, to exert in outward radial force on anything disposed about the balloon.

After stents 56 and 58 have been attached to graft 52, the graft-and-stent combination is loaded onto the distal end of catheter 60. The combination .s positioned so that each stent overlies a balloon 62 and the graft rests over and is substantially coaxial with the portion of the catheter that is between the two balloons. In order to insure that the graft and stem:s remain in this position until the deployment function as accomplished, the two stents are compressed or "crimped" onto the balloons prior to insertion of delivery system 50 into the patient. The graft and stents also can be secured by positioning the stents between ridges or collars provided on the expandable members, which will lateral movement of the combination. restrain Alternatively, biodegradable adhesives might be used to temporarily affix the stents to the balloons, the

adhesives being subject to degradation and absorption by the body when it is desired to deploy the graft.

Catheter 50 further is provided with sheat: 64 that helps to hold the graft and stents onto the catheter and which prevents direct contact of the elements of the combination with the walls of the vessels while the system is being advanced to the treatment site, thus protecting the vascular system of the patient from any sharp edges on the stents. Rod or wire 66 or other suitable mechanical element is connected to the sheath and extends proximally along the length of the catheter so that it can be manipulated by the physician exterior to the patient and retracted (proximally) at the time of deployment. Alternatively, a sheath can be provided that traverses the entire length of the catheter, and can be retracted (proximally) from outside the patient to expose the graft-and-stent combination.

The catheter has a second lumen through which guidewire 68 passes. The guidewire advantageously is advanced through the vasculature of a patient beyond the site of aneurysm 54 as a preliminary step in the grift delivery procedure. After the guidewire has been positioned, the catheter carrying the graft and stents is advanced over the guidewire. Although a particular form of catheter has been described to route the graft-andstent combination to the aneury:m, it will be apparent to those skilled in the art of treating aneurysms and similar conditions and of percutaneous catheter design that catheters of various configurations or wires and rods or the like could be used successfully to perform the same function. For example, well known fixed ware and rapid exchange wire systems also can be used in the delivery system described herein.

Attachment elements or barbs 20 are provided along the length of stent 58, which ultimately will attach the graft-and-stent combination to regions in the intima or acrtic wall. The barbs anchor the stents and

the graft while the implantation process is on going, and before the body has naturally assimilated the combination through intergrowth of endothelial cells. Stent 56 and stent 58 can be affixed to an end of graft 52 by staples. Other appropriate means might be used, such as a biocompatible adhesive, for example an epoxy resin, to attach stents 56,58 to graft 52. Alternatively, the stent might be sewn onto the graft at selected points. At least a portion of stents 56,58 extend out of graft 52, and if the stents and graft are joined by a bitt joint, then substantially all of the stent will extend out of the graft.

In FIG. 8, all of the elements of graft delivery system 50 except the distal end of guidewire 68 are shown positioned proximally of aneurysm 54, before graft 52 and stents 56 and 58 have been deployed. Sheath 64 of catheter 60 covers the graft and stents disposed about balloons 62, and the distal end of the guidewire has entered the region of the worth that is affected by the aneurysm. In FIG. 9, the sheath is withdrawn (proximally) exposing the graft-and-stent combination and the catheter is advanced so that the graft-and-stent combination spans the aneurysm. The balloons 62 are inflated by the pressurized fluid or gas source external to the patient, and the radial forces accompanying expansion of the balloons are applied to expand both the graft and the stents radially outward, pressing both elements against aortic wall 72 proximal to and distal to the aneurysm. Barbs 20 provided on the stent 58 become embedded in the aortic wall 72, to anchor the graft-ardstent combination against downstream arterial pressure while the healing process takes place. In FIG. 10, the delivery apparatus has been withdrawn and the graft-andstent combination is in final position across the aneurysm and attached to healthy tissue in aortic wall 72. It should be understood that when tubular graft 52 is expanded it is not stretching or deforming but is

simply opening from a closed diameter to an open and expanded diameter. The graft material generally is inelastic and can be made from any number of materials compatible with the body such as polyester fiber made from polyethylene terephthalate, sold under the trademark "DACRON" by the E.I. duPont deNemours lo.; polytetrafluoroethylene sold under the trademark "TEF\_JON" by E.I. duPont deNemours; and other suitable polymeric materials.

Another preferred method of incorporating a stent according to the present invention into a graft delivery system is illustrated in FIGS. 11 and 12. This embodiment differs from that shown in FIGS. 8-10 in that a single stent is used to anchor the graft in FIGS. 11-12, while two stents were used in FIGS. 8-10. A single stent is appropriate in the aorta where blood pressures can exceed 100 mm/Hg, which is enough force to hold the proximal end of the graft in place without the need for an anchoring stent on the proximal end of the graft.

Delivery system 80 (FIGS. 11-12) is shown in the abdominal aorta, just proximal to aneurysm 54. single stent 82 is attached by its proximal end to the distal end of graft 52 by staples, adhesive, or by sewing or other appropriate means as previously described. The graft-and-stent combination is mounted on catheter 60 and the stent is crimped or compressed onto balloon 62. Retractable sheath 64 covers and protects both the graftand-stent combination during delivery through vascular system until sheath 64 is withdrawn proximally to allow deployment of the combination. Barbs 20 extend from the most distal cylindrical element 12 to attach the graft and stent to aortic wall 72. As can be understood with reference to FIGS. 11 and 12, the stent is affixed to the distal end of the graft so that it substantially extends out of the graft, with the result being that radial expansion forces can be applied to the stent by inflating balloon 62 of catheter 60 and simultaneously

applying expansion force to graft 52. The stent is expanded simultaneously with the graft to drive barbs 20 into aortic wall 72 in healthy tissue distal to aneurysm 54, to anchor the combination to the vessel.

Another embodiment using the stent of the invention in a graft delivery system is present illustrated in FIGS. 13 and 14. Delivery system 90 includes stent 92 which is coaxial with and which extends the length of and beyond graft 52, such that first portion 94 of stent 92 extends proximally of graft 52 and second portion 96 extends distally of the graft. cylindrical elements 12 of the first portion 94 and the second portion 96 of the stent 92 are equipped with barbs 20, as is shown more clearly and in greater detail in Fig. 1, which will be relied upon at the time of deployment to anchor the graft-and-stent combination to healthy aortic tissue while the prosthesis is accepted by the body of the patient.

Balloon 98 necessarily must have a much greater length when measured along a longitudinal axis of stant 92 than the balloons of previously described embodiments, because the stent of this embodiment is at least double the length of either of the two stents used in the preferred method of delivering the graft and of the stent used in the embodiments of FIGS: 8-12.

As can be seen with reference to FIG. 14, stent 92 and graft 52 which overlies it are positioned so that the graft spans the length of aneurysm 54. Balloon 98 then is inflated with pressurized fluid or gas to expend both the graft and the stent simultaneously and to force barbs 20 into engagement with aortic wall 72 distally of the aneurysm. The expandable member then is deflated and the delivery-system withdrawn leaving the graft-and-stent combination in place in the blood vessel.

With reference to Fig. 15, an alternative embodiment of the intravascular multiple-anchor stent is illustrated, the plurality of cylindrical rings 112

forming the stent 110 are connected together by connecting members 114, and peaks 116 of at least one cylindrical ring at an end 117 of the stent to be secured within the graft 122 have barbs 120 that are pointed toward the longitudinal middle of the stent, away from the end 117 of the stent. Barbs 120 at the opposing end 124 of the stent to be secured to the vasculature are pointed toward the longitudinal middle of the sten: in the opposing direction, away from end 124, so that the stent will simultaneously grip the vasculature and the graft to hold the graft and stent in place, relative to the vasculature.

Referring now to Fig. 16, another alternative embodiment of a intravascular multiple-anchor stent is illustrated. In this enlarged view, the surface of stent 130 can be covered with barbs 140 that can be formed in the surface of the cylindrical elements 132, including the surface of the peaks 136 and valleys 138 of the cylindrical rings 132, and the connecting members 134 to provide a sandpaper effect of raised, pointed, directional bumps of the surface of the stent. As is shown in Fig. 17, multiple barbs 142 also can be formed on the outer edges of the reaks and valleys of the cylindrical rings so that the barbs will be directed outwardly when the stent is expanded, to allow the stent to better grip whatever portion of the vasculature comes in contact with the stent.

While the invention has been illustrated and described herein in terms of its use as an endoprosthesis for implanting a graft to treat an aneurysm, it will be apparent to those skilled in the art that the stent can be used in other instances in other vessels of the body. Because the stent of the present invention has the novel features of attachment elements and the capacity to expand quickly from relatively small diameters to relatively large diameters, the stent is particularly well suited for implantation in almost any vessel where

such devices can be used. This feature, coupled with the fact that the stent does not contract or recoil to any great degree after it is radially expanded, provides a highly desirable support member for other types of endoprostnesis.

In the foregoing description, statements concerning specific dimensions are given by way of example, and it should be apparent to one of ordinary skill in the art that other similar dimensions may also be suitable according to the principles of the invention. It will therefore be apparent from the foregoing that while particular forms of the invention have been illustrated and described, various modifications can be made without departing from the spirit and scope of the invention. Accordingly, it is not intended that the invention be limited, except as by the appended claims.

## 4. Brief Description of Drawings

Fig. 1 is a plan view of a multiple-anchor stent prior to rolling into a cylindrical configuration;

Fig. 2 is a perspective view of a portion of the stent of Fig. 1 rolled into a cylindrical configuration;

Fig. 3 is an enlarged partial plan view of the stent of Fig. 1;

Fig. 4 is a plan view of a portion of the stant of Fig. 1 in an unexpanded configuration;

Fig. 5 is an elevational view of the portion of the stent taken along line 5-5 of Fig. 4;

Fig. 6 is a plan view of a portion of the stant of Fig. 1 in an expanded configuration;

Fig. 7 is an elevational view of the portion of the stent taken along line 7-7 of Fig. 6;

Fig. 8 is an elevational view, partially in section, of a pair of multi-enchor stents incorporated into a graft and a delivery system to deliver and deploy the stents and graft;

Fig. 9 is an elevational view, partially in section, of the multiple-anchor stent, graft and delivery system of Fig. 8 after the graft-and-stent combination has been advanced and deployed in the region of an aneurysm and the stents have been deployed.

Fig. 10 is an elevational view, partially in section, of the graft-and-stent combination of Fig. 8 after the combination has been deployed and the catheter withdrawn:

Fig. 11 is an elevational view, partially in section, of another means by which a stent according to the invention can be incorporated into a graft delivery system, depicting the system prior to advancement of the graft-and-stent combination into the region of an aneurysm;

Fig. 12 is an elevational view, partially in section of the delivery system of Fig. 11 after the graft-and-stent combination has been advanced and partially deployed in the region of an aneurysm;

Fig. 13 is an elevational view, partially in section, of an alternate means by which a stent according to the invention can be incorporated into a graf; delivery system, depicting prior to deployment of the graft-and-stent combination;

Fig. 14 is an elevational view, partially is section of the delivery system of Fig. 13, depicting the system during deployment of the graft-and-stems combination;

Fig. 15 is a perspective view of a portion of an alternative embodiment of a stent according to the invention having barbs at one end facing in one direction, and barbs at the opposing end facing in the opposing direction;

Fig. 15 is an enlargel partial plan view of  $a_{\rm I}$ . alternative embodiment of a stent according to the invention having a plurality of barbs on the surface of the peaks and valleys of the cy\_indrical elements of the stent; and

Fig. 17 is an enlarged partial plan view similar to that of Fig. 16 illustrating another alternative embodiment of a stent according to the invention providing a plurality of barbs on the outer edges of the peaks and valleys of the cylindrical elements of the stent.

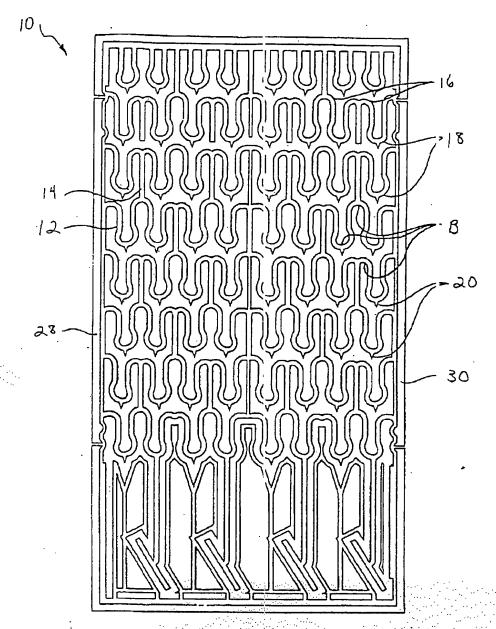
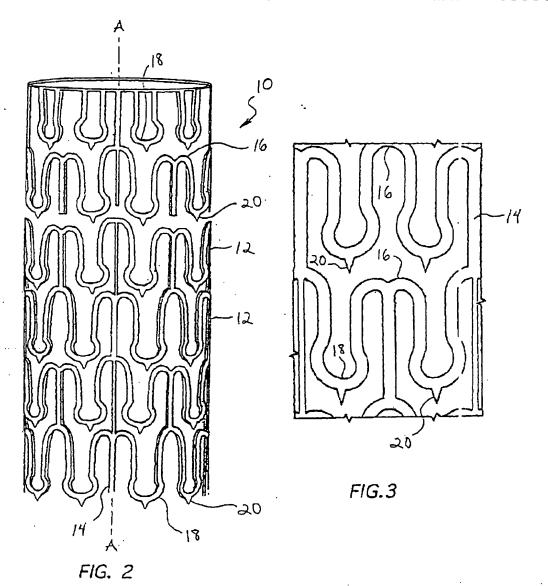


FIG. 1.



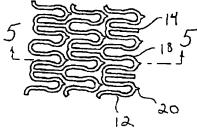


FIG. 4

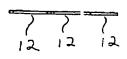


FIG. 5

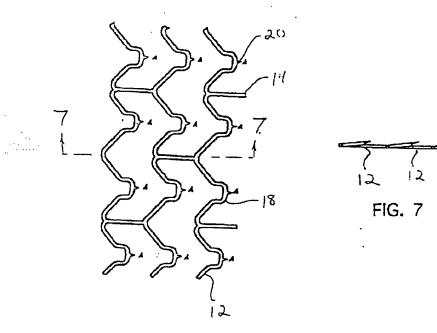


FIG. 6

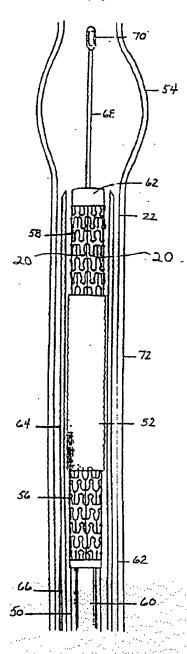


FIG. 8

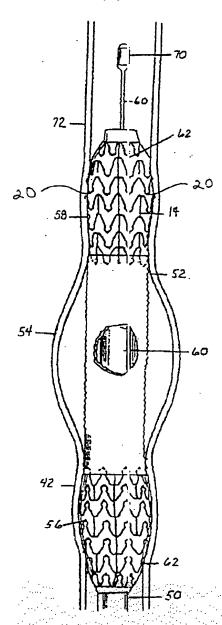


FIG. 9

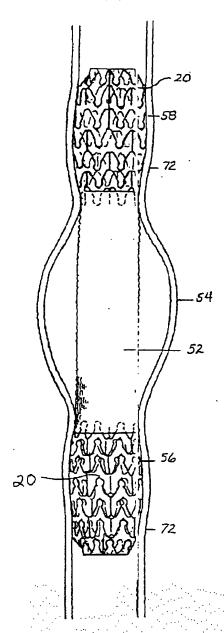


FIG. 10

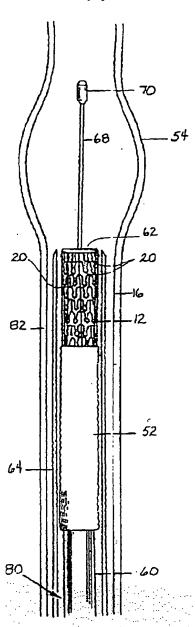


FIG. 11

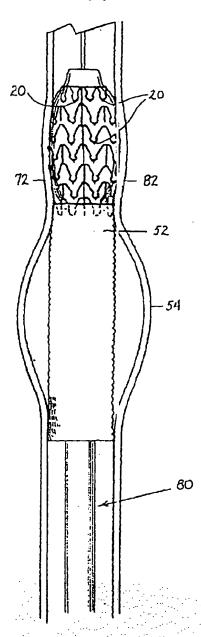


FIG. 12

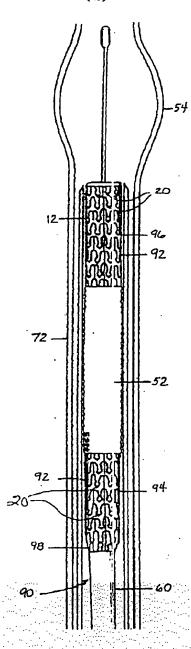


FIG. 13

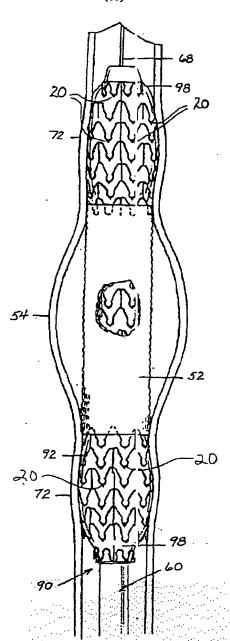


FIG. 14

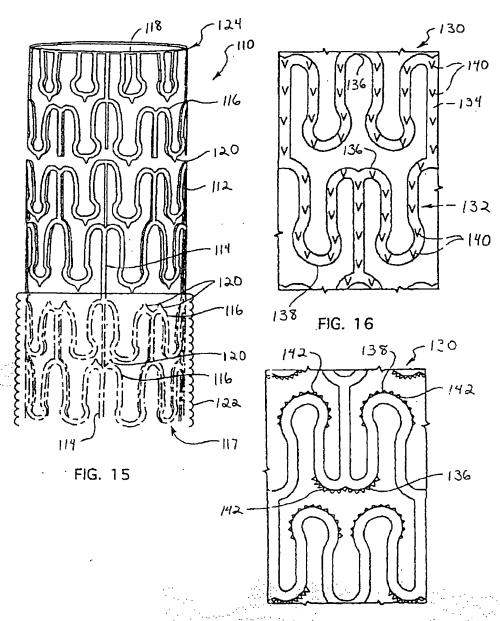


FIG. 17

## 1. Abstract

The intravascular nulti-anchor stent includes a plurality of cylindrical elements that are independently expandable in the radial direction and that are interconnected so as to be generally aligned on a common longitudinal axis, and a plurality of barbs along the entire circumference of the stent that face outwardly when the stent is in an expanded condition. A plurality of connecting elements are provided for interconnecting only the cylindrical elements that are adjacent to each other so that the stent, when expanded in the radial direction, retains its overall length without apprectable shortening.

### 2. Representative Drawing

F i g. 1

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載 【部門区分】第1部門第2区分 【発行日】平成15年6月10日(2003.6.10)

【公開番号】特開平8-332229

【公開日】平成8年12月17日(1996.12.17)

【年通号数】公開特許公報8-3323

【出願番号】特願平3-100622

【国際特許分類第7版】

A61M 29/00

{F | ]

A61M 29/00

#### 【手続補正書】

【提出日】平成15年2月19日(2003.2.1 9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 体腔に移植するための脈管内多アンカー ステントであって、

半径方向に実質的に自由に膨張可能な第1の円筒形要素 を備え、該第1の円筒形要素は、2つのU形部分の間に はさまれたW形部分を有しており、該W形部分は、球根 状のアーチ形の部分によって前記U形部分に連結されて おり、

半径方向に実質的に自由に膨張可能な一対の第2の円筒 形要素を備え、前記対の第2の円筒形要素のうちの各1 つは、2つのW形部分の間にはさまれたU形部分を有し ており、該U形部分は、球根状のアーチ形部分によって 前記W形部分に連結されており、前記第1の円筒形要素 は、共通の長さ方向軸線上に全体的に整合するように、 前記対の第2の円筒形要素の間にはさまれており、

前記第1の円筒形要素および前記第2の円筒形要素の球 根状のアーチ形部分の少なくとも幾つかに配置された刺 を備え、多アンカーステントが該ステントを体腔に取り 付けるために膨張形態にあるときに、前記刺は、部分的 に半径方向外方に向いており.

前記第1の円筒形要素のW形部分を前記第2の円筒形要 紫の対のうちの第1のもののU形部分に相互に連結させ、 る第1の相互連結要素と、

前記第2の円筒形要素の対のうちの第2のものの2つの W形部分を前記第1の円筒形要素のU形部分に相互に連 結させる一対の第2の相互連結要素と、を備えることを …… 特徴とする脈管内多アンカーステント

【請求項2】 前記第1の円筒形要素および前記第2の 請求項7 に記載の脈管内多アンカーステント。 円筒形要素の各々は、多アンカーステントが該ステント 【 間求項9 】 前記第1の円筒形具索および前記第2の

を体腔に取り付けるために膨張形!似にあるときに半径方 向外方に向けられる複数の刺を有することを特徴とす る、請求項1記載の脈管内多アンカーステント。

【請求項3】 多アンカーステントが半径方向に膨張さ れるときに、認めうるほどに短縮することなしに前記ス テントの全長を維持するように、j fi記第1の円筒形要素 と前記第2の円筒形要素を連結するための手段を更に備 えることを特徴とする、請求項2:己載の脈管内多アンカ ーステント。

【請求項4】 前記刺の各々は、3アンカーステントが 膨張していない形態にあるときに、共通の長さ方向軸線 に平行に向けられることを特徴とする、請求項1に記載 の脈管内多アンカーステント。

【請求項5】 前記第1の円筒形! 要素および前記第2の 円筒形要素の各1つは、前記第1つ円筒形要素および前 記第2の円筒形要素の球根状のアーチ形部分のうちの少 なくとも幾つかに配置された複数の刺を有することを特 徴とする、請求項1に記載の脈管17多アンカーステン

【請求項6】 前記複数の刺の各、つは、前記ステント が前記膨張形態にあるときに、指同性把持作用を行うよ うに、実質的に同じ方向に向けられることを特徴とす る、請求項5に記載の脈管内多アンカーステント。

【請求項7】 前記ステントが前記膨張形態にあるとき に、前記第1の円筒形要素および行記第2の円筒形要素 の前記刺は、前記ステントの長さ方向の一端のととろで 第1の方向に向けられ、前記第1つ円筒形要素および前 記第2の円筒形要素の前記刺は、前記ステントの長さ方 向の反対端のところで反対方向に同けられることを特徴 とする、 請求項5 に記載の脈管内33アンカーステント。

【請求項8】 前記ステントが前記膨張形態にあるとき - に、前記ステントの長さ方向の一端、および、前記ステ ントの長さ方向の反対端にある前記刺は、前記ステント の長さ方向の中間部分へ向けられることを特徴とする、

特開下8-332229

円筒形要素の球根状のアーチ形部分のうちの少なくとも 機つかに配置された複数の刺は、前記第1の円筒形要素 および前記第2の円筒形要素の外面部分に形成されたと がった隆起部を含むことを特徴とする、請求項1に記載 の脈管内多アンカーステント。

【請求項10】 前記ステントが自記膨張形態にあるときに、指向性把持作用を行うように、前記とがった隆起部の各1つは、実質的に同じ方向に向けられることを特徴とする、請求項9に記載の脈管PI多アンカーステント。

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

□ BLACK BORDERS
□ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
□ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
□ SKEWED/SLANTED IMAGES
□ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
□ GRAY SCALE DOCUMENTS
□ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

# IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY